

# 令和3年度 事業報告書

特定非営利活動法人 くすの木自然館

## 1. 事業の方針

コロナの影響が残る中だが、小規模向けのエコツアーの普及や他団体との協働により目標を達成していく年とした。昨年度開発した新規ツアーの運用に関してはコロナの影響は大きく、当初計画ほどの利用は見込めなかったが、錦江湾地域を「国立公園」としての観光地にできるような人材育成は行えた。

なにより、他団体との協働により大きな成果を残せた事業が多かった。

国立公園の保全と利用、ジオパーク活動、重富海岸を拠点とした環境教育の実施、共生・協働センターを拠点とした共生社会の推進など、これまでくすの木自然館が行ってきた活動によって培われてきたものを、より多くの人に普及していく年となった。

### 【主な事業】

#### ① 「重富海岸自然ふれあい館 なぎさミュージアム」委託管理

コロナ禍でも徐々に来館者が戻りつつあった。特に11月～1月に行った観光協会との協働特別展は大変好評を期し、11月～1月としては、過去最多の来館者となった。新規来館者がリピーターになってくれることも多く、地域に根差した国立公園の展示施設としての役割を担っている。

#### ② 鹿児島県共生・協働センター運営委託事業

「鹿児島県共生・協働センター」の運営委託管理事業。

昨年度の取り組みをもとに、「鹿児島県」「一般社団法人テンラボ」との3者協働により、鹿児島における共生・協働の在り方を推進できる施設としての企画・展示を行うことができた。

特に年末に起こった県内NPOの助成金不正受給を受け、県内NPOの中間支援的な役割や、法令順守の重要性をより強く伝えるようにした。

#### ③ 国立公園への誘客推進事業・国立公園でのワーケーション推進事業

環境省の補正予算による補助金事業の2年目。昨年度作成したツアーのPR動画やラジオ番組の放送、サステイナブルツアーを実践するための人材の育成を行った。錦江湾を国立公園として活用できる事業者を増やしていくための土台づくりとなった。

#### ④ 海の学びミュージアムサポート助成 「4園館合同企画」

船の科学館の行っている「海の学びミュージアムサポート助成事業」を活用し、かごしま水族館、平川動物公園、かごしま環境未来館、くすの木自然館の4園館が協働で

一つのテーマに沿った事業を行た。「こども環境リーダー育成事業」「SDG s アクション4～同時特別展～」 「4 園館ネットワーク形成」の3つを柱として行った。4つの園館の強みを活かし、一つのことを行っていくことができたのはとても大きかった。社会教育施設の連携を進めていくためのはじめの1歩となった。

⑤ 桜島錦江湾ジオパーク編成における事務局との様々な協力

桜島錦江湾ジオパーク事務局と連携した、始良地区の調査、一般市民への普及啓発などを行った。まだ、ジオパークの認知度が高いとは言えず、今後の継続的な活動、事務局だけでなく始良市との連携がより重要となる。

⑥ 始良伊佐地区マイクロツーリズム推進事業

始良伊佐地域振興局との協働事業。始良伊佐地区在住で、そこで働いている観光事業者をつなぎ、その地域の魅力を発信するためのワークショップを開催した。作成したマップが大好評だっただけでなく、観光連盟やリクルートの観光担当者からも「理想の形のマイクロツーリズム振興」と評価していただいた。

⑦ ESD 活動拠点と行う体験型環境教育推進事業

鹿児島県の新規事業。出水の野田小学校、錦江町の大根占小学校の校長先生にご橋梁いただき、学校にて、体験型の持続可能な社会づくりにつなげる環境教育を行った。校長先生、教職員、児童からも「なぜ単年度なのか？継続的にできないか」などの意見があがった。

⑧ 自然大満喫ツアー（主催）

コロナの影響を受け、利用者が減少していた去年よりは利用者は増加した。特に9月以降は密を避けた海岸の利用が増え、合わせてツアーの申し込みも多かった。しかし、HP やツアーパンフレットの作り変えを行えず、新規ツアーや値段の改正が行えていないことが課題である。

⑨ 物販の充実と販路の拡大

昨年度、大きく売り上げの伸びた物販事業を「サステナブルショップ」として運用し、売り上げの増加を行えた。特にココカラ（重富海岸で行われるマルシェ）等のイベント時の売り上げは大きかった。